

### 第15回『父の言葉』

第15回目の道徳では、黒柳徹子さんが後に福祉活動に取り組むきっかけとなった、幼少期の体験が元になったお話をしました。同じ病気でありながら、自分だけ歩けるようになった「私」は、完治しなかった女の子に自分の姿を見せられず、隠れるようになってしまいます。そんな姿を見た父に、「行ってお話ししてあげなさい。」と言われるが、当時の「私」にはそれができませんでした。「私」の行動と父の言葉に焦点を当てながら、相手を思いやるとはどういうことなのかを、みんなで考えました。

#### みんなの意見

##### 父の言葉を聞いて、「私」はどんなことを思ったのだろう？

- かわいそうだと思ってその子から離れることが、相手にとってかわいそうなことをしていると思った。
- 辛い人には話をしてあげたり、話を聞いてあげたりしてもいいとは思うけど、何を話すのかも分からないし、行けないと思う。
- 話せたとしても、相手は笑顔になるのか分からない。

##### 相手のことを考えて行動するとき大切なのは、どんなことですか？

- 今、相手が何を求めているかを考えること。
- 相手の気持ちは相手にしか分からない。自分が決めつけて行動をしたら、相手が傷つくかもしれないから、しゃべりかけたりしてその人のことをよく知ってから、相手が一番うれしい対応をすること。
- 相手に話して嫌な気持ちにさせるという思い込みで行動するのではなく、相手が話しかけられて嫌な気持ちになるかうれしい気持ちになるかを考えること。
- 相手を「かわいそう」と思うのではなく、平等に見る。相手の立場になってどうしたらいいのかを考えること。

##### 今日の学習で学んだことや考えたこと

- 人間の特徴である「考えて話すこと」が、一番難しいと思った。またそこから言う勇気が必要になってくるからそこを乗り越えないと、と思った。
- 相手のことを思って行動するのはいいことだと思うけど、その行動をとって、相手はどういう気持ちかというのを考えていくのも大切だと思う。

## 相手を思いやるとは？